



女もすなる都市計画 開催報告！ 7月8日、22日開催 「魅力的な都市を調べる」 第七回 in 静岡/浜松

国内外の魅力的な都市のまちづくりの歴史を通して見えてきたこと。共通するのは、「確固としたコンセプト」
「継続による蓄積」そして、それらを支える「住民組織の存在」

◆フライブルグ(ドイツ)・綾町(宮崎県)

国も規模も異なる、人口約21万5千人のフライブルグと、人口7千5百人の綾町に通底するのは、コンセプトの一貫性。魅力ある都市づくりには、長い時間をかけ、コンセプトに沿ったまちづくりを官民が連携し、継続的に推進することが必要である。

フライブルグの場合、徹底した環境政策により“環境首都”として世界的にも知られる。省エネや自然エネルギーの導入、資源循環による廃棄物の減少、公共交通の推奨、屋上緑化や大木の保存等による緑化、雨水浸透の徹底等々、30年もの期間をかけ、環境をコンセプトに官民が一体となり、一貫して進めてきた都市づくりの蓄積が魅力を形作っている

ユネスコ・エコパークに登録され、紅葉樹林都市・有機農業の町として有名な綾町の場合、農業を中心とした小さな町ではあるが、移住希望者が多いまちとしても注目される。取組みは40年以上も遡る。高度経済成長期、紅葉樹林への開発圧力に抗して保全を決めたことに始まる。その後、徹底した資源循環、有機農業の推進や酒泉の杜等の観光振興にも取組み今に至る。そして、その実現を支えたのが、1967年から続く「自治公民館」運動の存在と言われる。

リーダーが変わるごとに、まちづくりの方向性が変わってしま

原田橋に関する意見交換会 事務局報告

当NPOが、事務局業務を浜松市から受託している「原田橋に関する意見交換会」が7月29日(水)に開催された。第1回が4月26日に、第2回が6月21日に開催され、今回が第3回となる。

本会は、平成27年1月31日に発生した原田橋崩落事故に伴い、地元意見を汲んだ新橋の設置を早期に実現することを目的に、地元代表者と浜松市が意見交換する場として設置された。同日行われた浜松市長の定例記者会見で、本会の大きな検討事項である新橋の架橋ルートについての方向性が示され、本会での住民の要望に沿った結論が出され、一つの区切りがついた。

それにより、当NPO法人の意見交換会の運営業務は終了となった。



旧橋の位置から200m下流に架橋する方針が示された

【所感】 設立後、初めての受託業務で、住民と行政とが直接対話する場の運営に携わることができ、さらに社会的にも関心度が高い「新原田橋の架橋ルート」の決定の場に立ち会えたことは、とても価値ある経験となった。原田橋の完成までには5年もの期間がかかるという。住民にとっては、これからが始まりともいえる。この期間は仮設道路が住民の生活や活動を支える。毎回の意見交換会では、通行止めが頻繁にあり、二輪車も通行できない等、仮設道路では日常生活への支障を解消できないことが、切実な声として述べられた。少しでも住民の方の負担が小さくなるよう、仮設道路の改善が継続されると共に、早期の新橋建設を強く望む気持ちが湧いた。

当NPOとしても、関わり方は変わるが、まちづくり・むらづくりに携わる立場で、関心を持ち続け、住民に寄り添う情報発信等、応援し続けてゆきたい。

うことを防ぐには、確固としたまちづくりコンセプトを住民が共有し、まちづくりの原動力となっていくことが必要である。

◆ポートランド(アメリカ)～コンパクトシティの理想像～

全米で最も“住みやすい都市”といわれるポートランド。人口60万人の都市で、移住者がひきも切らないという。その始まりに「都市成長境界線(※)」の設定がある。都市開発を境界線内に制限した結果、境界線外の農地や自然の保全に成功し、農地と宅地が混在する日本各地の郊外とは全く異なる風景が実現し、かつ、都市と農村部(境界線外)とは、農産物の生産と消費を通じて共存している。境界線内では、公共交通や自転車が利用しやすくネットワーク化されると共に、

「walkability：歩きやすさ」「mixed-use：多種の融合」「creativity：創造的な志向」を重視した魅力ある中心部が形成され、単にコンパクトであるだけでなく、中身のある魅力的な小ささが実現している。さらに、ポートランドで注目すべきは「近隣組合」の存在。「市民が市政を動かす」仕組みとして機能し、住民自らが、都市づくりに主体的に関与する強い基盤となっている。

浜松会場の参加者から、浜松市でも“コンパクトシティ”が都市の目標像として示されてはいるが、官民共にきちんと理解していないように感じる。ポートランドが示す「コンパクトシティ」の本質を理解し、浜松市の都市特性をふまえた独自のコンパクトシティ像を描き、市民が共有する必要性を指摘する声があがった。

今回は、協働の先進都市である三鷹市等を事例に、魅力的な都市における、まちづくりの組織・体制について研究します。

※：1979年、オレゴン州の土地利用政策としてポートランドを含む25の自治体が境界線を引き、都市開発をする範囲を境界線内に制限した。

ちょっと注目！

気になるまちづくり「もっと知りたい！ポートランド」～コンパクトシティの基盤・公共交通～

1970年代以前のポートランドは、都市化や自家用車の普及により、中心市街地の衰退や都市部の渋滞、スプロール化等、今日本で抱えている課題に直面していた。その状況を打開すべく、上段で説明した「都市成長境界線」の他にも、「歩けるまち」を目指す交通政策を掲げた。



バスには自転車も搭載できる
自転車の活用にも積極的

車に過度に依存しない脱車社会を実現する上で要となる公共交通は、ポートランドの場合、空港等郊外と中心部を結ぶ、LRT(マックス)・路線バス(トライメットバス)、中心地を回遊する路面電車(ストリートカー)である。これら3つを運輸連合(トライメット)で運営することで、ソフト・ハード両面のシームレス化を可能にし、サービスや案内の一元化を実現した。この一元化により、共通運賃制度(同一ゾーンであれば乗り降り自由)や、有効時間内でのLRT・路線バス・路面電車乗り換え無料化を実施することができている。他にも、パーク&ライドの推進や、駐車場建設の制限といった政策はもちろんのこと、中心市街地に運賃無料区域を設定するなど商業活性化事業にも取り組み、車から公共交通への移行が図られている。

ポートランドが脱車社会に成功できたのは、公共交通がインフラの一環として捉えられているからといえる。収益性よりも公益性が重視され、トライメットの運営は、ほぼ税金(運賃収入は2割)で賄われており、市民も税金を投入すべきという認識を共有している。このポートランド市民の姿勢から、日本で持続可能な公共交通を実現させるには、交通機関や行政だけに任せるのではなく、「みんなで公共交通を支えていく」意識が最も必要だと感じた。

まちサポF U J I 理事コラム⑦ 理事 村田 和彦

(公財) 浜松国際交流協会 理事

専門分野：都市計画・地域計画・まちづくり



こうした機会を頂いたので、浜松市における外国人の実態と「多文化共生のまちづくりとグローバル感覚に優れた人づくり」を基本方針に掲げる(公財)浜松国際交流協会(愛称 HICE(ハイス))の取組みを紹介させていただきます。

浜松市の在留外国人は現在(H27.4.1) 20,920人、総人口 808,959人の約 2.6%、国籍別では、ブラジル 8,706人、ペルー 1,675人、南米地域の方が全体の約 5割を占め、近年、アジア地域からの留学生、技術研修生が増えてきています。長期滞在可能な在留資格者が 8割を占め、定住化傾向が一層進行し、持ち家率や自治会の加入率とも伸びてきています。南海トラフの巨大地震が想定されているため、災害時の避難場所の認知度向上など防災意識の高まりも見られます。一方、日本人市民は、文化や習慣などの違いを課題と認識しているものの、外国人市民との交流が徐々に拡大し、「多文化共生」という言葉、考え方の理解が徐々に広がり、異文化体験の機会や街の活性化への期待が高まっています。

HICEでは2013年10月、異文化理解、市民交流イベント「78ヶ国の浜松市民が大集合! 『未来はみんなで作る』」を実施し、日本を含め 28ヶ国の約 230人が参加しました。ブラジル、フィリピンなどにルーツを持つ若者 4人が中心に企画運営し、交流ワークショップ、音楽ワークショップを通じて出会いを楽しみ、一つのリズムを作り

上げ、この場を共有した感動を次につなげ、多様性が豊かなまちづくりの力になるという「新しい多文化共生の流れ」を共有し発信しました。さらに、防災意識の高まりに対応し、2015年2月、多言語(ポルトガル語、英語)による防災アプリ(Jishin SOS HICE)を県、市と連携し、外国語マスコミ(ブラジル、フィリピン)の協力を得て開発しました。このアプリの普及を梃子に、外国人の自助・共助意識の啓蒙、外国人コミュニティのネットワーク強化に繋げる予定です。こうした取組みが可能なのは、多様な人や組織と繋がり誰からも頼りにされる中間支援組織として、HICEが認知されていると考えています。

HICEでの取組みや経験が、当NPO法人の目標である、①人と人との『関係』、②個人個人の『心』、③社会・空間が持つ『多様性』を有する地域の「豊かさ」につなげる」に役に立てればと願っています。



78ヶ国の浜松市民が大集合! 『未来はみんなで作る』集合写真

〔プロフィール〕

名古屋大学工学部建築学科卒。浜松市役所ではアクトシティ浜松、大学誘致、中心市街地の活性化、FSC等多数のプロジェクトに関り、農林水産部長、都市整備部長を務め、平成25年5月より公益財団法人浜松国際交流協会業務執行理事。

(公財) 浜松国際交流協会

ホームページアドレス <http://www.hi-hice.jp/index.php>

Facebook アドレス <https://www.facebook.com/hice.jp>

HP Facebook



今後の活動情報

◆ 講演会 ◆

多業種多分野の著名な方々をお招きし、それぞれの立場・視点からまちづくり・むらづくりの課題、将来像を語って頂く講演会・交流会(軽食付)を開催しています。

日時	テーマ・内容	場所
2015年 11月5日開催	第六回 防災・減災 ～現場力を活かす～	三島市
2016年 1,2月予定	第七回 (仮) 健康と都市の魅力	未定

○各回資料代：非会員 500円/人(税込)、正会員無料。

◆ 勉強会 ◆

女もする都市計画 ※日程は変更になる場合があります。**浜松の8月開催日は変更になっています。ご注意ください。**

静岡会場：毎月第2水曜日 18時30分～ 次回8月12日(水)

浜松会場：毎月第3水曜日 18時30分～ 次回8月19日(水)

○各回費用：1000円程度(お茶・軽食代含)。各回のみ参加も可能。

◆ 原田橋に関する意見交換会 事務局より ◆

当NPOでは、平成27年1月31日に発生した浜松市天竜区原田橋再建に向けた『原田橋に関する意見交換会』の事務局を務め、専用HPにて情報配信を行っています。<http://www.haradabashi.com/>

◇ お申込み方法 ◇

本誌右下の連絡先まで、FAXまたはE-mailにて、①ご参加希望の講演会または勉強会の名称・開催日・勉強会は会場、②お名前、③ご連絡先の住所・電話番号・FAX番号・E-mail、④ご所属、⑤交流会への参加有無をご連絡ください。費用は当日受付にてお支払ください。※最新情報は、当NPOのHP(<http://npofuji.jp>)をご参照ください。

会員募集

当NPOの趣旨にご賛同いただき、会員になってくださる方を募集しております。まちづくり・むらづくりに関心のある、支援・参加したい方々をお待ちしております。正会員には講演会レポートや会報「FUJI通信」の送付、当NPO主催の講演会等への参加費の割引/無料等の特典がございます。

○会費：

入会金) 正会員 3,000円 賛助会員 1,000円

年会費) 正会員 6,000円/一口 賛助会員 1,000円/一口

○振込先：

静岡銀行清水中央支店(店番144) 普通 0950668

特定非営利活動法人まちづくりサポーターF U J I

理事 川口宗敏

トクヒ) マチツクリサポーターフジ

○お申込み：

上記振込先にお振込み後、下記連絡先まで、FAXまたは、E-mailにて、①お名前、②ご連絡先の住所・電話番号・FAX番号・E-mail、③ご所属、④お振込み口数をご連絡ください。ご連絡先は、お勤め先でもご自宅でも結構です。後日、領収書と会員番号をお送りします。



連絡先



NPO法人まちづくりサポーターF U J I 事務局

電話 : 053-525-8511 FAX : 053-533-3203

E-mail : info@npofuji.jp